

令和7年度
福島県歴史資料館
収蔵資料展

江戸時代の 出版文化



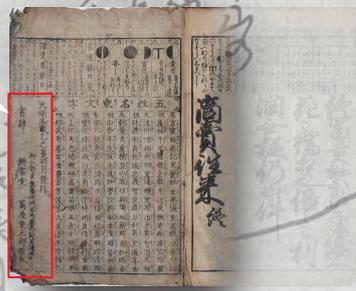
入館無料



信夫山



十三 強五宮
かりそけり神のこころ
ゆちちあり
いとせの村りうきまのま
ニ本松 瑞星 鏡子 晴
今津山
七 十三
いろあやまをく廣ふゆし
今津のゆりうきまのま
雪草園 万久恒
石志山
十三 十三
日根のゆり
宮根のゆり
かろのゆり
三尻尻
宮のゆり



令和7年 4月19日(土) ▶ 7月21日(月・祝)



トピックス展 「明治時代の白水阿弥陀堂」 同時開催



福島県歴史資料館展示室

(とうほう・みんなの文化センター内)

- 〔開館時間〕 午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
- 〔休館日〕 毎週月曜日 (5/5・7/21を除く)、5/7 (水)
- 〔解説会〕 4/27 (日)・5/24 (土)・6/29 (日)
各回とも午後1時30分より、50分程度担当者が解説します。
- 〔主催〕 公益財団法人 福島県文化振興財団



福島県歴史資料館
〒960-8116 福島県福島市春日町5-54

TEL: 024-534-9193
FAX: 024-534-9195
E-mail: history@fcp.or.jp

福島県歴史資料館

検索

ホームページ X (旧 Twitter)



江戸時代の出版文化

本展示では、当館が収蔵する江戸時代の出版物を紹介いたします。

板本や一枚刷りなどの出版物は同一製品がいくつも存在するため、一点物の古文書と比べると歴史資料としてはやや軽視されてきました。しかし、出版物からは、当時の人々がいかなる知識や情報を求めていたのか、あるいは福島県域がどのような地域として認識されていたのかなどを探ることができます。

江戸時代の人々を魅了した出版物の魅力や歴史資料としての重要性にご注目ください。



扶桑名所名物集 陸奥国 (庄司家寄託文書 II 3552)

檜園梅明が編纂し歌川芳虎が挿絵を描いた、各地の名所・名物を取り上げた狂歌集です。福島県域では信夫山や白河の関などが登場しています。



商賣往来 (菊地久明家文書 11)

吉原から日本橋に進出した蔦屋重三郎が、天明5年(1785)に出版した、商売に必要な知識や心得などをまとめた教科書です。



奥州二本松嶽温泉 (内池輝夫家文書 1957)

文政7年(1824)の土石流による被害の後、近隣へ移転して再興した嶽温泉の姿を描いたものです。湯守の平近平も板元に加わっています。



蚕養手引草 全 (佐藤健一家文書 80)

檜枝岐の名主である星氏が、南山御蔵入領内での養蚕の普及を意図して出版した手引書です。挿絵は南会津出身の渡部南嶽が描いています。



北斎畫譜 (内池善作家文書 10)

表紙は「北斎畫譜」ですが、中身は葛飾北斎の『北斎漫画』を基にした偽作本(「繪本獨稽古」)です。北斎人気に便乗しようとしたのでしょう。

トピックス展「明治時代の白水阿弥陀堂」



いわき市の白水阿弥陀堂は、明治時代に大規模な修理がなされ、福島県を代表する国宝の建造物になっています。明治期の文化財保護行政を背景とした先人の巧みな修理方法を紹介します。

◀明治31年(1898)頃の白水阿弥陀堂 (福島県神社庁文書 137)